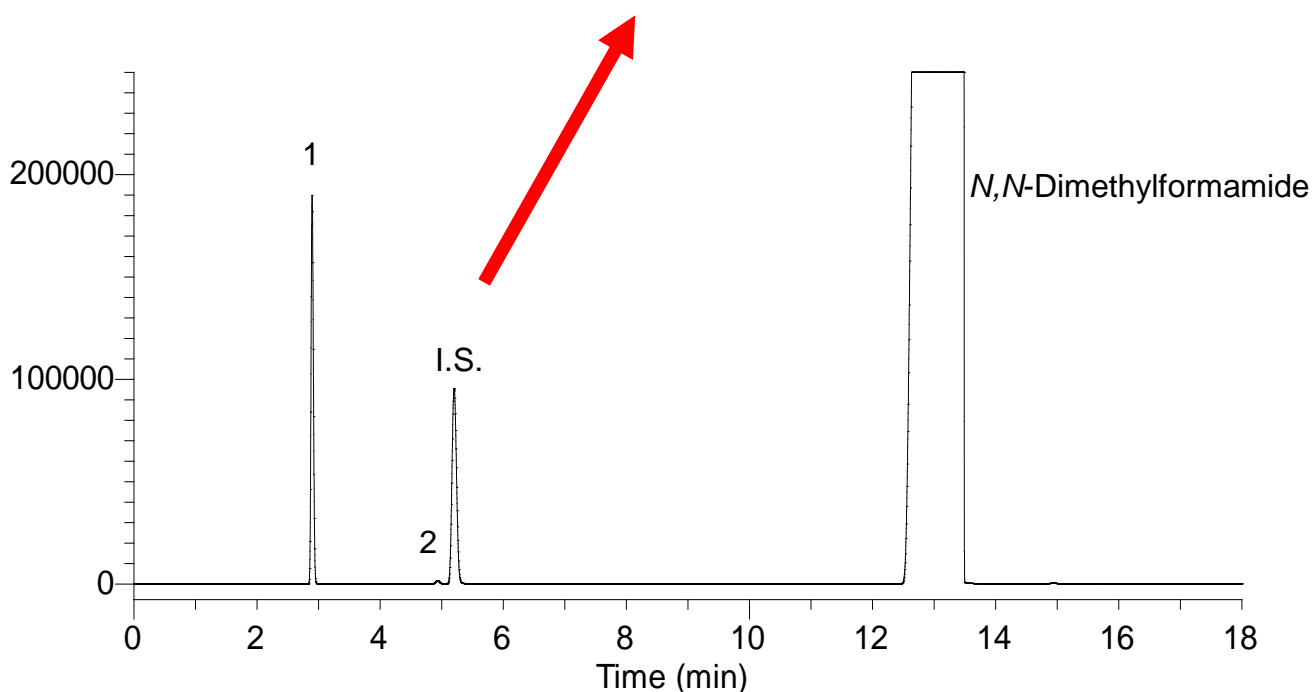
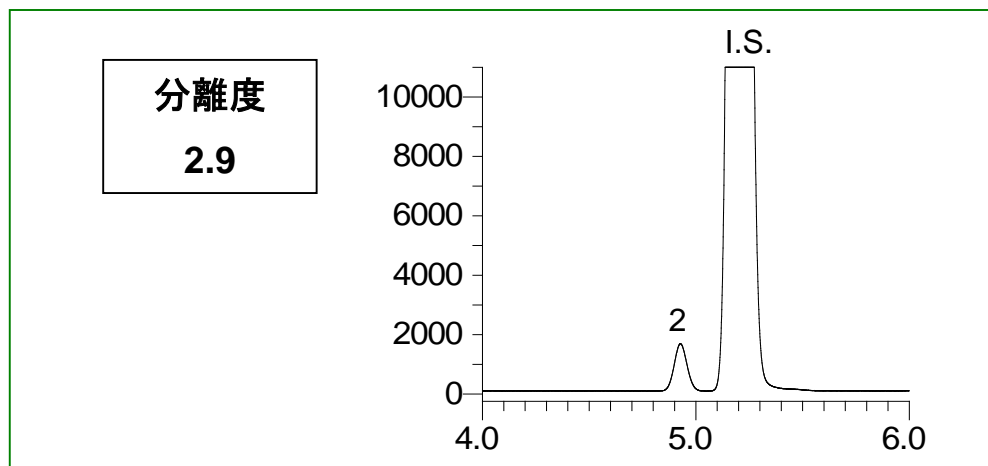


コルヒチンは痛風を抑えたり、ベーチェット病の治療薬として使用される医薬品として知られています。

今回は、日本薬局方に記載されているコルヒチン純度試験を参考に分析を行いました。

標準溶液は、酢酸エチル・クロロホルム・1-プロパノール(内標準成分)を*N,N*-ジメチルホルムアミドで希釈したものを使用しました。クロロホルムと1-プロパノール(内標準成分)の分離度及び酢酸エチル・クロロホルムの相対標準偏差を確認したところ、良好な結果が得られましたのでご紹介致します。

標準溶液測定例



Analyte :

1. Ethyl acetate	4.0 mL/L
2. Chloroform	0.2 mL/L
I.S. 1-Propanol	3.2 mL/L

*Standard mixture

Conditions

System	: GC4000/FID
Column	: InertCap Pure-WAX 0.53 mm I.D. × 30 m df = 1.00 μm
Col. Temp.	: 60 °C(7 min hold) - 40 °C/min - 100 °C(10 min hold)
Carrier Gas	: He 29 cm/sec
Injection	: Split flow 100 mL/min 130 °C
Detection	: FID Range 10 ¹ 200 °C
Sample Size	: Analyte in <i>N,N</i> -Dimethylformamide 2.0 μL

相対標準偏差

内標との面積比の繰り返し性(n=3)

	酢酸エチル	クロロホルム
1回目	1.008	0.0127
2回目	1.011	0.0126
3回目	1.008	0.0125
平均値	1.009	0.0126
標準偏差	0.001494	0.000106
相対標準偏差(%)	0.15	0.85



ジーエルサイエンス株式会社

〒163-1130 東京都新宿区西新宿 6-22-1 新宿スクエアタワー 30F
TEL.03-5323-6611 FAX.03-5323-6622

※各試験法は、変更される場合がありますので、分析の前に確認されることをお勧めします。

データに起因し、直接的または間接的に生じたいかなる損害に対しましては、当社が責任をおうものではありません。また、記載事項につきましては、予告無しに改訂する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

カスタマーサポートセンターでは、ノウハウのご提供と分析に関するフォローを行っております。お困りの際には、カスタマーサポートセンターまでお気軽にお問い合わせください。

カスタマーサポートセンター (土・日・祝除く9:00-17:00)

☎ 04-2934-1100 ✉ info@gl.s.co.jp



【アプリケーションの検索はこちら】

https://www.gl.s.co.jp/technique/app/app_search.html